

「水引小学校の寄田三尺棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立水引小学校

2 学年・人数

4年生（計17人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和2年9月～10月 水引小学校体育館

(2) 発表の日時・場所

令和2年11月3日（火） 校区総合文化祭

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

寄田三尺棒踊り（よりたさんじゃくぼうおどり）

(2) 由来

鎌倉時代や戦国時代に始まったといわれる。各地で戦乱が相次ぎ，農地は荒廃したが，農民は自衛のための武器を持つことも許されなかった。そこで農民は6尺または3尺の棒を担ぎ，護身に用いた。もともと武術の一種ともいわれるが，一説には田打ち行事の一つで，地面をとんとん突くのは田開きで虫追いだとする農耕儀礼説もある。昭和38年に県の無形民俗文化財に指定され，その伝統が受け継がれている。

(3) 構成等

三列縦隊，6人一組で踊る。紺緋に白襷をかけ，紺の足袋に草鞋，白鉢巻きをし，長さ3尺の木刀を持って勇壮に踊る。歌い手の「おーせーろー」の歌に合わせて踊り子が氣勢を上げながら踊りの隊形を整える。

「さーさーさー」の踊り出しの歌と同時に，「ほい」と踊り子は小手をかざして木刀を使いながら踊り始め，6人がらみ，3人がらみ，出棒＝受身の型，逆棒＝攻撃の型など交えて威勢よく踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

年1回，6月第1日曜日に行われる新田神社の御田植祭において奉納を行っている。御田植祭の一月前ほどから準備が始まり，児童も保存会の方々に教わりながら練習に取り組む。夜間の練習になるが，保護者は子供の送り迎えをし，練習の間も見守っている。地域と保護者の協力体制の下，子供たちは熱心に三尺棒踊りの伝承活動に取り組んでいる。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

平成26年度に始まった「水引中校区総合文化祭」では，毎年4年生が舞台での発表を行っている。

また，ふるさと・コミュニケーション科における郷土の歴史・文化・伝統についての調べ学習（「ふるさとを学ぼう」）の中で，5・6年生の児童が中学1

年生と共に校区の歴史や由来、踊り方などを調べ、2学期に行う「ふるさとを学ぼう合同発表会」で発表するようにしている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【4年生児童生徒】

- ・ 踊りがむずかしかったが、本番で上手に踊れたのでよかった。
- ・ 繰り返し繰り返しの練習で大変だった。でも、そのおかげでうまく踊れるようになったのでうれしかった。
- ・ 本番は衣装を着ることができて、踊るのが楽しくなった。

【保存会から】

- ・ 毎年、4年生の指導をしているが、その年の子供の雰囲気違って、とても楽しい。子供たちは一生懸命に練習をしてくれるので、教えていてやりがいを感じる。この体験を通して、寄田地区に伝わる「寄田三尺棒踊り」を、水引小と水引中の子供たちが受け継いでくれることを期待している。